

令和2年度取り組み内容および達成状況（2020）

1＜中長期目標＞

- ①「智・徳・体を修め社会に奉仕する」の建学の精神を再確認し、生徒一人ひとりに洗練された感性と豊かな心を身につけさせる。
- ②生徒一人ひとりの夢が実現できるよう、個々の能力を伸長させ、希望進路の実現を推進する。
- ③生徒・保護者や地域から愛され信頼される南大阪の代表的な学校とする。
- ④浪商高校創立100周年までに、浪商ブランドを確立する。
ブランド：泉州地域を代表する進学校。大阪を代表するスポーツエリート校

2＜重点目標＞

- ☆スポーツと進学の2本を柱にした学校の構築を目指すため、次の2点を重点目標とし、浪商ブランド確立の基礎とする。
- ①学習活動を充実させる。
 - ②部活動において成果を発揮する。
- ☆生徒の希望進路実現のため、次の点を重点目標とする。
- ③進学指導マネジメントシステムの構築
 - ④進学実績の成果向上
 - ⑤中高一貫体制の確立
- ☆生徒一人一人に豊かな心を身につけさせるため、次の点を重点目標とする。
- ⑥規律・規範の確立と自主性の伸長
 - ⑦人権教育・安全教育の充実

3＜目標達成状況＞および＜今後の課題と取り組み＞

重点目標	令和2年度 具体的な取り組み内容と達成状況	令和3年度 今後の課題と取り組み
① 学習活動の充実	・ICT（IⅡアド：スタディサプリ・その他：スタディプログラム）を活用した自主学習の習慣付けの流れができ、家庭学習の時間が増えた＜S＞ ・進学スポーツコースの授業に対する満足度は生徒・保護者共に上がった＜S＞ ・大幅なコースの再編に向けての検討が細部まででできなかった＜C＞ ・新カリキュラムを視野に入れながらグレード展開や教科内での試行錯誤が行われた＜B＞ ・浪商手帳の活用や朝学など工夫をして学年、コースごとに取り組みを行った＜B＞ ・ロッカー、ゴミ箱を廊下に置くことで整理整頓や授業へのけじめなどの効果があった＜B＞ ・到達度テストなどの結果を分析し、指導の見直しや授業での対策を図ることができた＜A＞	・ICTを活用した授業の研究と自主学習の習慣付けを定着させる ・新コースでは全コースの朝学の実施で学習に対する姿勢を育てる ・主体的な学びを育む授業形態、内容の模索 ・新コースの根幹となる探究についてコースごとのねらいや達成目標から3年間の系統的な学びの計画を今年度の実績から修正、補強していく ・今年度も到達度テストなどの結果を分析し、指導の見直しや授業での対策を図る ・コースの特色などを丁寧に検討し教員間で共有する ・観点別評価について研究、試行し次年度に備える

② 部活動の成果	・コロナ禍のためほとんどの大会が中止になったがどのクラブも工夫をしながら生徒のモチベーション維持に努めた<A> ・コロナ禍でもハンドボール、陸上部、水泳部は好成績を残した<S> ・文化部のイベントはできなかったがいろいろな機会をとらえて発表することで自己研さんに勤めた。<A> ・クラブ活動が盛んであるとした生徒の肯定率が90%台に戻った（昨年は81%）<A> ・進学総合コースのクラブ加入率は例年通り6割程度にとどまっている	・運動部、文化部ともに制限のある中ではあるがそれぞれの目標達成のために精進する ・文化部の部員数の確保のために生徒への働きかけだけでなく募集時のアピールの工夫を図る ・同好会設立以外にも文化活動（書道や写真など生徒の要望を受けて）を支援する仕組みを作る
③ 進学マネジメント	・各コースの進路行事の設定や目標設定について学年と進路指導部が連携し共通理解を図った。<A> ・進路関連行事は学年と進路指導部が状況を把握して理解し合い協力して立案、運営を行った。<A> ・生徒への情報提供の場を設定した。<A> ・模試の結果資料の活用と分析を系統的に行った。<A> ・コロナ禍で保護者に対する進路ガイダンスができなかったが肯定率は低くなかった	・各コースの進路行事の設定や目標設定について学年と進路指導部が連携し共通理解を図る。 ・進路関連行事は学年と進路指導部が状況を把握して理解し合い協力して立案、運営を行う。 ・生徒、保護者への情報提供の場を設定する。 ・模試の結果資料の活用と分析を系統的に行う。 ・
④ 進学実績	・国公立大学 5名 ➡ 3名 関関同立 10名 ➡ 15名 産近甲龍 15名以上 ➡ 14名 大阪体育大学 58名 ➡ 63名 （体育学部 43名→49名、教育学部 15名→14名） ・全教員が統一した意識を持ち、全コースで公募推薦からチャレンジする授業運営を試みた。 ・3年の全コースで進路検討会を実施した。<A> ・コースにあった保護者向け進路ガイダンスを計画したが実施できなかった。<C> ・小論文指導の継続、英国の学科試験の点数向上を目指した。<A>	・国公立大学 5名以上 関関同立 10名以上 産近甲龍 15名以上 大阪体育大学 58名 （体育学部 43名、教育学部 15名） ・A0, 指定校及び内推のグループと推薦、一般で頑張る生徒の両輪で指導することで進路実績を上げる ・指定校推薦の開拓 ・提携校との連携を更に推進する
⑤ 中高一貫体制の確立	・行事のねらいを踏まえた企画、運営の見直しと点検を図ることができなかった<C> ・浪中生が高校でリーダー的な役割を担うためにも生徒会活動や委員会活動の協働的作業はできなかった <D> ・体育祭の実施の是非は生徒の意見を尊重して中止したが文化祭は限定的に行った ・委員会活動の在り方について教員間の共通認識を図ることができなかった<D>	・形態や内容を検討、工夫をして行事の実施を模索する ・コース再編に伴い、中高一貫のキャリアマネジメントの構築を図る。

⑥ 規律規範の確立・自主性の伸長	・生徒の特性（コースごと）に合わせた工夫した指導ができたこともあり肯定率が上がった。＜A＞ ・不公平感からくる不満の解消や風評（SNS書き込み）の誘発を防ぐために生徒の対応についての教員の意識改革を行った。＜B＞ ・生徒会で生徒アンケートを実施し要望や意見をまとめ、学校との話し合いを重ねて、主体的に規範意識を高めていく取り組みを行ってきたが学校休校を余儀なくされ中途半端に終わってしまった＜B＞ ・教員のスマホ、SNS使用に関するガイドラインの構築を図る（さくら連絡網に変更）。＜A＞ ・生徒会活動への関心の高まりからか、立候補者も複数出て、立会い演説も白熱したが、全校集会ができないのもあり生徒会活動が全体のものになっていない＜C＞ ・浪商祭を生徒主体の行事として意識させようとしたが不十分であった。＜C＞ ・委員会活動などを通して、学校での課題を自らで解決できるようにできなかった。＜D＞	・生徒の特性（コースごと）に合わせた指導体制を構築する。 ・不公平感からくる不満の解消や風評（SNS書き込み）の誘発を防ぐために生徒の対応についての教員の意識改革を図る。 ・生徒会で生徒アンケートを実施し要望や意見をまとめ、学校との話し合いを重ねて、主体的に規範意識を高めていく取り組みを図る。 ・教員のSNS使用に関するガイドラインの検討を行う。 ・お知らせのツールとしてClassi、さくら連絡網などの整備とルール作り ・生徒会組織の再構築を図り、浪商祭を生徒主体の行事として取り組ませる。 ・委員会活動などを通して、学校での課題を自らで解決できるように働きかける。
⑦ 人権教育・安全教育	・人間関係、スマホ、インターネットに関して講習をするなど意識向上の手立てを検討し、実践した。＜A＞ ・相談室を中心にピアサポートなどを通して総合的探究の時間に系統的に学ばせた＜A＞ ・修学旅行が実施できず、それに代わるものの実施もできなかった＜D＞ ・人権をテーマに教員研修が行えた＜A＞	・コロナ禍で出来ることを工夫して考え実行する ・相談室、保健室との連携を強化し、教員全体が生徒情報の共有と取り組みを行う。

※達成状況は次の5段階評価で示す

＜S＞よく達成できた ＜A＞まあまあ達成できた ＜B＞どちらとも言えない
 ＜C＞あまり達成できていない ＜D＞まったく達成できていない

分析及び検討：2020（令和2年） ①1.10. ②3.16. ③ 5.17.

令和２年度 大阪体育大学浪商高等学校の学校評価(第三者評価)

日 時 令和３年８月４日(水)、１０月１２日(火)、１０月２７日(水)、１０月２９日(金)

出席者 大阪体育大学 体育学部 スポーツ教育学科長 曾根 純也
大阪体育大学 体育学部 健康・スポーツマネジメント学科長 富山 浩三
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 元保護者会会長 小林 弘輝
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 校長 工藤 哲士
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 副校長 恩塚 千代
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 教頭 濱田 倫史
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 教頭 松田 博志
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 事務長 岸本 雅彦
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 入試対策室室長 外畑 拓哉
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 主幹教諭 福光 聖美

１ 学校評価及び学校診断アンケートの結果報告

「令和２年度取り組み内容及び達成状況（2020）」「項目別比較」「コース別比較」「学年別比較」「共通項目別比較」、さらに生徒、保護者、教職員の「学校診断アンケート（コース別、学年別）」の資料やグラフに基づき詳細な説明を行った。

２ 第三者評価について(学校関係者評価を中心に)

１）目指す学校像は「中長期目標」に掲げる①「智・徳・体を修め社会に奉仕する」建学の精神を再確認し、生徒一人ひとりに豊かな心を身につけさせる ②個々の伸長及び夢や希望進路を実現 ③地域社会から信頼される学校 ④浪商ブランドの確立。上記①～④を具体的な「重点目標」に設定している。

２）重点目標の設定は、進学とスポーツの２本柱として浪商ブランドを確立させることを基本として、①学習活動の充実、②部活動成果を第一義にあげている。次に生徒の希望進路実現のために、③進学マネジメントシステムの構築、④進学実績の向上、⑤中高一貫体制の確立を重点目標に設定している。また一人ひとりに豊かな心を身につけさせるために、⑥規律・規範の確立と自主性の伸長、⑦人権教育・安全教育の充実などをあげ、中長期目標に沿った具体的な重点目標の設定と取り組みが行われていると評価できる。

３）上記の重点目標①～⑦の具体的項目毎に、令和２年度の「具体的取り組み内容とその達成状況」を５段階（S、A～D）で学校関係者による評価が示されている。その学校

関係者評価と対応して、令和 2 年度の「今後の課題と取り組み」も表記されている。
また今年度の特徴(過去 3 年間との比較)、項目別比較、学年別比較、コース別比較、
アンケート対象者別比較、様々な観点から検証を行うとともに項目別の検討課題を抽出し、
具体的対策まで明確に示されている。

以上の観点から「令和 2 年度取り組み内容及び達成状況 (2020)」の資料を統括して、貴校の
学校評価への取り組みは適切なものであると評価できる。